

ごあいさつ

塩竈市は、陸奥国一之宮である鹽竈神社の門前町として、また、国府多賀城の港（国府津）や仙台藩の物流の要となる港町として、さらには魚の水揚げと水産加工の漁業の町として、古より栄えてきた土地であります。

現代におきましても、観光船やプレジャーボート、遊覧船の基地もあり、鉄道や三陸自動車道へのアクセスも良好、仙台空港へも30分圏内に位置しており、交流のためのインフラが「陸・海・空」で揃っており、大変な優位性を持っております。

さらには、食の分野でも、伊達藩から特別に酒造りを許され、鹽竈神社の御神酒として歴史があり、和食とも相性の良い日本酒や、三陸沖の魚介類を使った寿司、ブランドマグロの「三陸塩竈ひがしもの」や藻塩を使ったスイーツなど、季節ごとにさまざまな食が楽しめるまちです。

このように、魅力的な「観光素材」が豊富な本市では、これまで、食や歴史文化、自然などのさまざまなコンテンツを国内外にプロモーションしてまいりました。昨今、観光庁が示した「明日の日本を支える観光ビジョン」や宮城県の「観光戦略プラン」など、観光事業を重要な産業として成長させるビジョンを国や県が示しており、本市でも、長期総合計画の重点戦略として掲げている交流人口と経済効果の増大を目指し、また、東日本大震災からのさらなる復興へ向け、これまでのプロモーションだけでなく、マーケティングやブランディングを視野に入れ、産業戦略としての観光を意識した「塩竈市観光振興ビジョン」を策定することといたしました。

この度の観光振興ビジョン策定に際しましては、策定委員会やワークショップなどで、市民の方々の熱意が感じられるご意見を頂戴いたしました。そのご意見は、アクションプランとして、今後の施策に反映してまいります。

この観光振興ビジョンを通して、塩竈の魅力を市民の皆さまと改めて共有し、おもてなしの心で多くの観光客の皆さまをお迎えしたいと思います。そして「塩竈」が国内外に広く認知され、多くの方においでいただき、楽しみ、満足していただきたいと願っております。

最後に、観光振興ビジョン策定にご尽力いただきました策定委員の皆さま、ワークショップやパブリックコメントで貴重なご意見をくださいました方々に厚く感謝申し上げます。

塩竈市長 佐藤 昭



第1章 観光振興ビジョン策定の背景と目的

ビジョンの背景と目的、観光のもたらす効果、観光の定義など、本ビジョンの前提となる条件を整理しています。

1 ビジョン策定の背景と目的

ビジョン策定の背景

塩竈市は、国府多賀城の港（国府津）として開かれ、その景勝は歌枕となり、都人憧れの地でした。また陸奥国一之宮鹽竈神社の門前町として、江戸時代には仙台の水揚げ港としてにぎわいを見せました。明治に入ると本格的に港湾が整備され、三陸地方唯一の鉄道のある港町として、水産業、水産加工業の礎が築かれました。昭和には宅地造成や仙石線の高架複線化事業などにより、仙台圏東部地区の中核都市として人口も増え、買い物や観光の客でにぎわいました。

しかし2011（平成23）年3月11日の東日本大震災により、塩竈市は生活、産業、観光など多方面で甚大な被害を受けました。震災後、落ち込んだ観光客の入込数も戻りつつありますが、伸び悩んでいるところでもあります。

このような中、国は「観光立国」を目指し、2016（平成28）年、インバウンド誘致を中心とした観光産業としての可能性の高さと重要性を示す「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定しました。また、宮城県も「観光戦略プラン」を策定し、「沿岸部の観光復興と交流人口の拡大による地域の活性化」を基本方針として、現在、第3期のプランに取り組んでいます（平成30年度から第4期がスタート予定）。

このような、国と県との観光意識の高まりを受け、塩竈市におきましても、2011（平成23）年に策定した「第5次塩竈市長期総合計画」と「塩竈市震災復興計画」における「交流人口と経済効果の増大」を目指し、今後の観光の方向性を示す「観光振興ビジョン」の策定に取り組むことといたしました。

ビジョン策定の目的

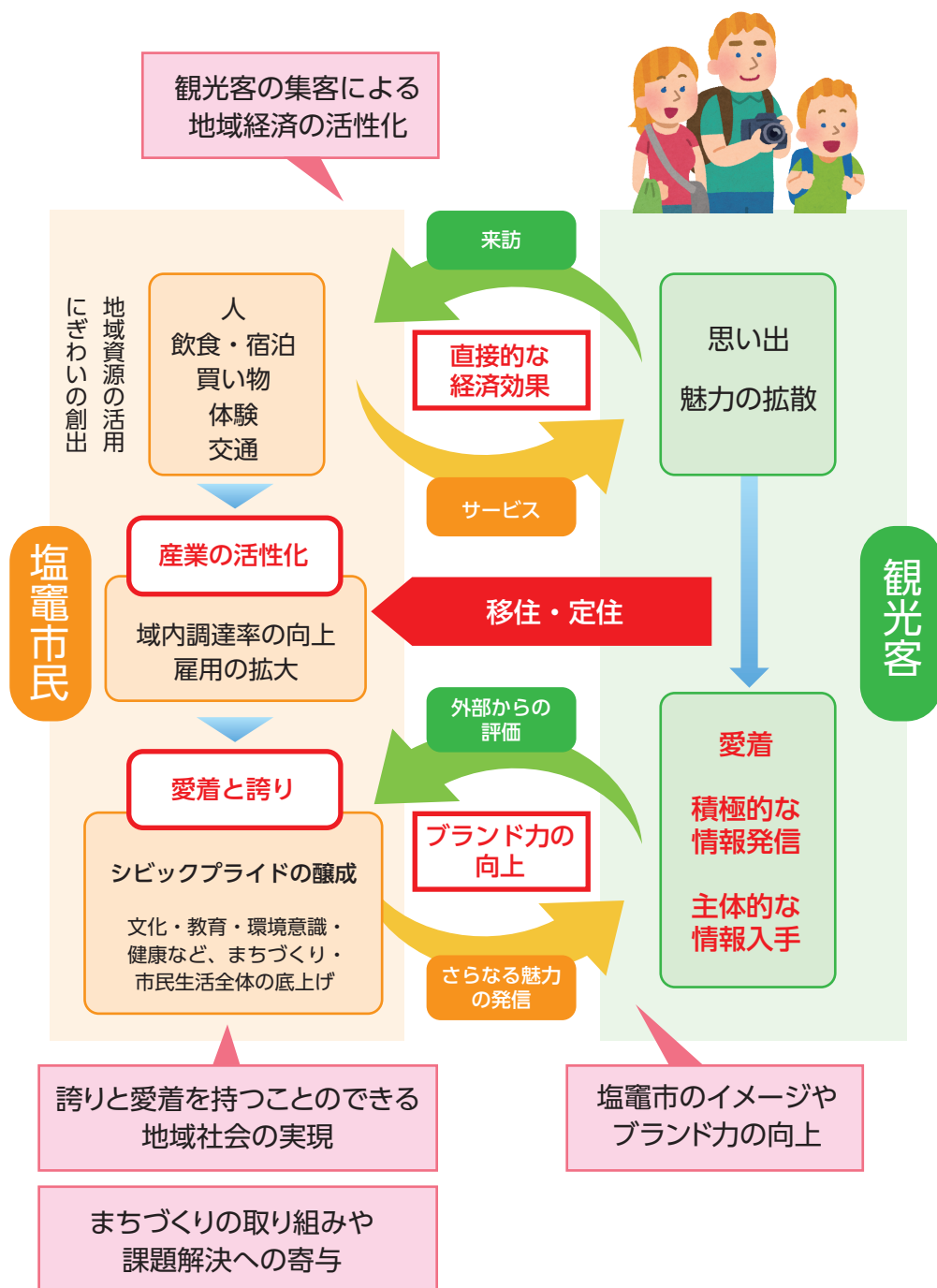
観光振興ビジョンは、観光によって塩竈市にもたらされる経済効果を再認識するとともに、これまでの観光資源を磨き上げ、再評価し、市民、事業者、地域、行政が一体となって観光振興を促進していくための基本方針と行動計画を示すことを目的としています。

観光振興ビジョンを推進することは、第5次塩竈市長期総合計画や塩竈市震災復興計画などの上位計画の実現を他の計画や方針との整合性を図りながら確実なものにしていくことであり、さらに、市民、民間団体、企業、行政などの多様な主体が、それぞれに観光促進を担うという決意を胸に、当事者意識を持って積極的に観光まちづくりに参画していくことでもあります。多様な主体がそれぞれの長所を生かし、できることから着手して課題を共有し、連携することで、地域全体で塩竈市の観光を振興することが可能となります。

本ビジョンでは、鹽竈神社や門前町、市場や浦戸諸島などの観光スポット、三陸塩竈ひがしものや藻塩に代表される塩竈ならではの海産物・お土産品などの観光資源を組み合わせ『アクションプラン』として設定しました。今後の市の観光振興を具体的な取り組みとして共有し、市一丸となって、観光を生産性の高い産業へと育て上げていきます。

2 観光もたらす効果

塩竈市の観光を振興することにより、国内外の来訪者が増加し、まちに活気とにぎわいが創出され、多様な地域資源を活用することにより、観光消費が増大し、経済的な効果がもたらされます。



塩竈市のイメージやブランド力の向上

観光振興を通じて、塩竈市の地域イメージを国内外に発信し、塩竈市のブランド力を高めることにより、塩竈市の知名度、好意度などが向上し、市外の方の転入意向が高まることも期待できます。

観光客の集客による地域経済の活性化

観光客が市内で飲食や買い物、体験、宿泊などを行うことにより、観光消費額が増加し、雇用の創出や拡大といった経済効果がもたらされます。

誇りと愛着を持つことのできる地域社会の実現

観光客が塩竈市を訪れて好意的に評価することがきっかけとなって、市民が塩竈市の素晴らしさを再認識する機会となります。観光を振興することにより、市民が塩竈市に誇りと愛着を持つことのできる地域社会の実現がもたらされ、市民の定住意向が高まる効果も期待できます。

まちづくりの取り組みや課題解決への寄与

観光は商業、文化をはじめとして、環境や教育、健康、交通などの分野と親和性が高く、観光を推進することで、市民協働のまちづくりを進めていくうえでの取り組みや課題解決に寄与することができます。



塩竈みなと祭御座船「鳳凰丸」

3 塩竈市における観光の位置づけ

塩竈市の観光は、多様な観光資源の特性などを踏まえて、以下の3つの分野に位置づけることができます。

第一の観光は、鹽竈神社や松島湾観光船のような優れた観光地で、国内外の観光客が参詣や景観を楽しむなど、最も一般的な観光分野で、塩竈市の観光の主流といえます。

第二の観光は、長年の歴史がつくり出した鹽竈神社の門前町や商店街、塩釜水産物仲卸市場など、本来は塩竈市民の日常的な消費活動の場であったものが、仙台市民をはじめとする宮城県内や全国、海外から訪れる観光客が、まちあるき、文化・芸術・体験、食事、買い物などを非日常的な気分で楽しむことのできる観光分野で、今後の成長が期待されている分野です。

第三の観光は、浦戸諸島での海水浴などの自然体験や漁業体験、マリンスポーツなどを、仙台市民だけでなく宮城県内の子どもたちや家族連れやシニア層が楽しむことができる自然体験・研修の観光分野で、今後の成長が期待されている分野です。

このように塩竈市の観光は、鹽竈神社や松島湾観光船などの名所旧跡、自然景観だけではなく、鹽竈神社の門前町や塩釜水産物仲卸市場、浦戸諸島など、市民の日常生活の場の中で、まちあるき、体験、食事、買い物、芸術鑑賞、祭り・イベントなどの非日常的な活動を楽しむことのできる多様な観光資源を有しているということが出来ます。



市内の酒蔵を説明する「蔵ガイド」